

令和2年度

東北地区

参加無料

定員170名

申込先着順

橋梁技術発表会 及び 講演会

新型コロナウイルスの感染拡大により中止となる可能性があります。

コロナ対策を考慮
定員変更の可能性有

13:00~13:10 開会の辞 【未定】

第1部(技術発表)

13:10~13:50 設計小委員会

1. 連続合成2主桁橋の設計例と解説について
～ H29 道示による設計もこれで大丈夫 ～

休憩

14:00~14:40 製作小委員会

2. 製作・溶接・防食に関する研究
～ 製作小委員会における最近の活動報告 ～

14:40~15:20 保全委員会

3. 著名橋の補修・補強事例
～ 歴史的価値を守りながら鋼橋を後世に残す ～

休憩

第2部(特別講演)

15:35~16:35

【演題未定】

国土交通省東北地方整備局
道路調整官 折笠 徹

16:35~16:40 閉会の辞 橋梁技術発表会
実行委員会
副委員長 内海 靖

開催会場

東京地区 : 10月02日(金)
 大阪地区 : 10月07日(水)
 東北地区 : 10月16日(金)
 北海道地区 : 10月23日(金)
 九州地区 : 11月06日(金)
 中部地区 : 11月13日(金)
 (6地区開催ですが、発表テーマは異なります)

日 時 令和2年10月16日(金)
13:00~16:40

会 場 仙台国際センター2F
仙台市青葉区青葉山無番地

申し込み Web サイト <http://www.jasbc.or.jp/>
受付は令和2年9月4日~10月2日
※申し込みは、Web サイトからのみです。

継続教育 CPDS 認定予定

資料配布 論文およびPPTのpdfは事前にWebサイトにアップ
致しますので、必要に応じて出力し持参願います。

発表概要

【連続合成2主桁橋の設計例と解説について】

「連続合成2主桁橋の設計例と解説」は、平成13年の発刊以来、連続合成桁の設計テキストとして多くの皆さまにご利用頂いて参りました。当協会では、平成29年の道路橋示方書(以下、道示)の改定に合わせて、まず単純合成桁の計算例である「合成桁の設計例と解説」を平成30年2月に改訂いたしました。本テキストは、その連続合成2主桁橋編となります。今回の道示改定では、許容応力度設計法から部分係数設計法へ移行しただけではなく、橋に求められる要求性能がより明確化され、耐荷性能の照査方法も大きく変わりました。ここでは、新旧道示による主桁断面の違いや、すれ止め、横桁の設計等について分かり易く解説します

【製作・溶接・防食に関する研究】

製作小委員会は、製作部会、防食部会、耐候性鋼橋梁部会の3部会から構成されます。

製作部会では、裏波ビードを有する片面溶接の疲労強度など、溶接を主体とした研究を行っており、昨年度から組立溶接の規定緩和に向けた研究を行っています。また、i-Constructionへの取り組みとして、鋼材検査証明書(ミルシート)の電子化の検討を行っています。防食部会では、防食の観点からの鋼構造物の耐久性向上を目的とした研究を行っています。腐食環境の厳しい沖縄県に位置する暴露試験場において、橋梁上部工を模した大型試験桁を用いて新規塗料および金属溶射の比較試験、部材面取りの要否確認試験など実施しています。耐候性鋼橋梁部会では、新しい技術を用いた既設耐候性鋼橋梁のさびの評価方法について研究しており、最近では、点検時の外観評価から補修の必要性を判断する方法を検討しました。また、耐候性鋼用表面処理剤を塗布した鋼材の外観の経年変化は製品によって異なるため、暴露試験により経年変化の特徴を確認しています。

本発表会では、製作小委員会3部会の研究成果や途中経過の概略について発表します。

【著名橋の補修・補強事例】

私たちの身の回りには様々な鋼橋が存在します。その中には昔からその場所であり、生活やその町の風景に溶け込み、なくてはならない存在となっている鋼橋も少なくありません。そこで、町の歴史や文化を象徴するかのよう存在する著名橋を対象として、長寿橋梁ならではの特徴を踏まえながら、その価値を損なわずに後世へと残すことができるよう工夫しながら行われた補修・補強の事例を紹介いたします。なお、対象橋梁は比較的近年に補修・補強が行われたもので、技術的な資料が存在するものとします。

主催:



一般社団法人 日本橋梁建設協会
Japan Bridge Association Inc.

<http://www.jasbc.or.jp/>